

美郷町観光振興計画

平成31年 3月

秋田県美郷町

目 次

第1章 計画の策定と経緯

- 1. 計画策定の趣旨・目的 1
- 2. 計画の位置づけ 2
- 3. 計画の期間 2

第2章 観光振興の現状と課題

- 1. 立地・自然・交通条件 4
- 2. 本町の地域資源 5
- 3. 統計でみる観光産業の現状
 - (1) 年間入込客数及び月別入込客数 6
 - (2) 町内宿泊施設における年間宿泊者数 7
 - (3) 第3セクターの売り上げ 8
- 4. 現状と課題
 - (1) 地域資源の観光資源化と活用・連携 9
 - (2) 観光客の受け入れ体制 9
 - (3) 観光情報の収集・共有・発信 10

第3章 観光振興の基本方針と施策展開

- 1. 基本方針 12
 - 方針1. 地域資源とニューツーリズムとのネットワーク化
 - 方針2. 観光客の受け入れ態勢の構築
 - 方針3. 情報共有と受発信体制の構築
- 2. 基本目標 12
 - (1) 入込客数の数値目標
 - (2) 宿泊稼働率の数値目標
 - (3) 第3セクター売り上げの数値目標

3. 観光振興の施策展開	
方針1. 地域資源とニューツーリズムとのネットワーク化	
(1) 地域資源の連続性	13
(2) 新たな地域資源の発掘と活用	14~16
(3) 体験型・滞在型観光の確立	17~19
方針2. 観光客の受け入れ態勢の構築	
(1) 受け入れ態勢の充実	20
(2) 観光人材の育成	21
方針3. 情報共有と受発信体制の構築	
(1) 観光情報の収集・共有・発信	21~22
4. 主な整備計画図	
(1) 平場	23
(2) 山間	24

第4章 計画の推進体制

1. 計画の推進体制	26
2. 計画の推進スケジュール	(別紙)
3. 計画の進捗管理と評価	26



第 1 章

計画の策定と経緯

1. 計画策定の趣旨・目的
2. 計画の位置づけ
3. 計画の期間

第1章 計画の策定と経緯

1. 計画策定の趣旨・目的

美郷町は、平成16年11月1日の新町発足後、平成17年度に策定した「第1次美郷町総合計画」、平成27年度に策定した「第2次美郷町総合計画」に基づき、住民一人ひとりが「わがまち美郷」にさらに誇りを持てるまちづくりを目指して、各般の施策を展開してきた。

観光分野に関しては、「人がふれあうー交流でにぎわいと笑顔あふれるまち」を目標として、六郷湧水群を中心とした清水（湧水）やラベンダーまつり、六郷のカマクラなど、地域にある資源や行催事を主とした観光振興施策に取り組んできた。

近年の旅行形態は、日本人観光客及び外国人観光客を問わず従来の「モノ消費型」から「コト消費型」へ大きくシフトし、団体での旅行が減少し個人や小グループでの旅行が増加、地域にある独自の資源を体験するニューツーリズムが成長かつ成熟し、体験型・滞在型観光へのニーズは多様化・細分化・複雑化してきている。

このような傾向や情勢の変化、とりわけ、これまで十分ではなかったニューツーリズムへのニーズに応え、既存の地域資源とのネットワーク化により新たな観光振興施策の構築や物産振興に寄与することを目的とした、町全体の観光指針となる「美郷町観光振興計画」を策定する。

※モノ消費型・・・商品の購入に価値を見出す消費傾向

※コト消費型・・・商品やサービスを購入したことで得られる体験に価値を見出す消費傾向

※ニューツーリズム・・・エコツーリズムやグリーンツーリズム、ヘルスツーリズムなどの
新たな観光スタイル

2. 計画の位置づけ

本計画は、美郷町総合計画における観光振興施策の展開に向け、既存の地域資源とニューツーリズムのネットワーク化を図り、体験型・滞在型観光を目指すものとする。

3. 計画の期間

本計画の期間は、平成 31 年度から平成 37 年度までの 7 年間を期間とする。



第 2 章

観光振興の現状と課題

1. 立地・自然・交通条件
2. 本町の地域資源
3. 統計でみる観光産業の現状
4. 現状と課題

第2章 観光振興の現状と課題

1. 立地・自然・交通条件

美郷町は秋田県南部に広がる仙北平野の南東部に位置し、東は奥羽山脈を境に岩手県、南は横手市、北・西は大仙市にそれぞれ接している。

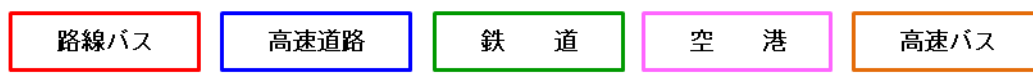
総面積は168.3平方キロメートルで、東西に約14キロメートル、南北に約20キロメートルの広がりを持ち、西側は標高40メートルから50メートルの発達した扇状地の扇端部にあつて、肥沃な土壌と豊富な水資源に恵まれた県内有数の穀倉地帯を形成している。

気候は、夏は高温多湿、冬は降雪が続き寒暖の差が大きく、冬期間の積雪は平均で平野部が150センチメートル、山間部で200センチメートルに達する。

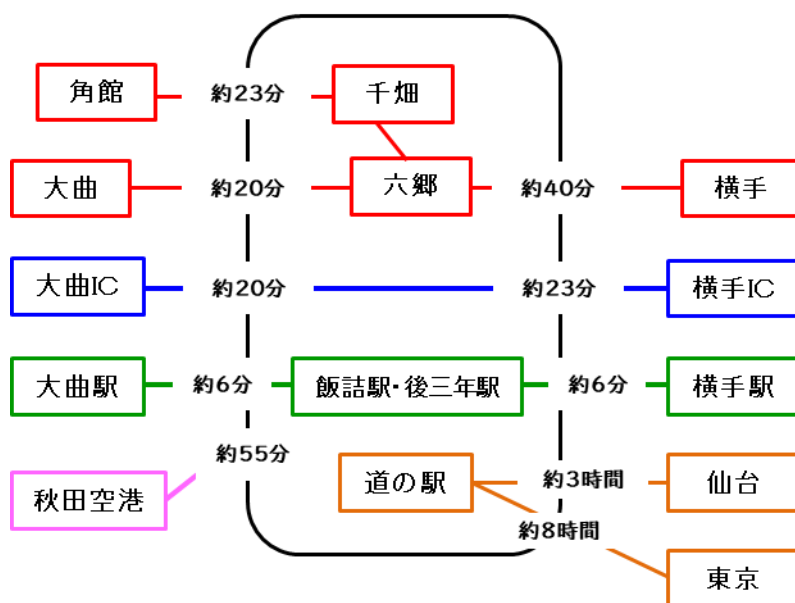
主要道路は国道13号と主要地方道角館六郷線、交通は路線バスが羽後交通(株)の横手・大曲線と角館・六郷線、高速バス(秋田・仙台または東京間)、鉄道はJR奥羽本線の飯詰駅と後三年駅がある。

町の中心部から、秋田自動車道大曲ICまで車で約20分、横手ICまで車で約23分、秋田新幹線が発着する大曲駅まで車で約20分、秋田空港まで車で約55分の位置にある。

凡 例



【 美郷町 】



2. 本町の地域資源

本町は、次のように多様で多彩な地域資源を有しており、これら一部の地域資源を活用した観光振興施策に取り組んできた。

〈項目〉	〈主な地域資源〉
自然 風土	<ul style="list-style-type: none"> ●七滝山 ●真昼岳 ●女神山 ●森林 ●ため池 ●田園 ●雪 ●サクラ ●水芭蕉 ●ラベンダー(美郷雪華) ●山菜 ●高山植物 ●清水 ●イバラトミヨ ●ホタル
歴史 文化	<ul style="list-style-type: none"> ●坂本東嶽邸 ●佐藤章蔵 ●歴史民俗資料館 ●後三年合戦 ●寺町通り ●六郷城址 ●本堂城址 ●関田円形分水工
体験	<ul style="list-style-type: none"> ●米づくり ●野菜・果樹づくり ●収穫 ●カマクラづくり ●天筆書き ●蔵開き ●森林浴
行催事	<ul style="list-style-type: none"> ●ラベンダーまつり ●清水まつり ●舟っこ流し ●美郷フェスタ ●六郷のカマクラ
拠点 施設	<ul style="list-style-type: none"> ●千畑温泉サン・アール ●六郷温泉あったか山 ●湯とぴあ雁の里せんなん ●宿泊交流館ワクアス ●大台野広場 ●雁の里山本公園 ●道の駅雁の里せんなん ●名水市場湧太郎 ●ニテコ名水庵 ●手づくり工房湧子ちゃん ●観光休憩所「清水の館」 ●後三年スキー場 ●JR飯詰駅・後三年駅
物産	<ul style="list-style-type: none"> ●ニテコサイダー・りんごサイダー・ニテコ炭酸水 ●ニテコ流しそうめん ●美郷まんま・美郷たぬ中 ●地酒 ●美郷雪華コレクション
交流	<ul style="list-style-type: none"> ●東京都大田区 ●北海道中富良野町 ●長野県東御市 ●栃木県那珂川町 ●日本航空株式会社 ●株式会社龍角散 ●公益社団法人東京生薬協会 ●株式会社山崎帝國堂 ●国立大学法人秋田大学 ●公立大学法人国際教養大学 ●秋田県立大学 ●ヨネックス株式会社 ●株式会社モンベル

3. 統計でみる観光産業の現状

(1) 年間入込客数及び月別入込客数（秋田県観光統計より）

秋田県観光統計で主要観光地点に定められている6地点における年間の入込客数は次のとおりで、平成24年から例年ほぼ60万人前後で推移している。主要観光6地点における月別の入込客数は、6月から7月頃にかけてピークを迎える。これは、初夏から盛夏にかけて清涼感を呼ぶ六郷湧水群をはじめ町内各地にある清水が観光拠点として最適な時期を迎えること、美郷町ラベンダー園が開園することなどが主な理由として考えられる。ピーク時の観光客数は9万人前後を記録している。11月から2月頃にかけては六郷のカマクラや蔵元の蔵開きが行われるが、気温の低下や降雪などが原因で観光客数が低下していると考えられ、観光客数は3万人前後まで落ち込んでいる。

<年間入込客数>

(人)

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
570,336	594,727	584,961	614,256	640,166	599,654

<月別入込客数>

(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成24年	27,364	31,016	38,308	42,136	55,873	55,906	81,404	64,379	53,360	52,000	37,842	30,748
平成25年	22,922	27,334	37,452	39,800	54,475	69,845	73,477	77,148	59,529	54,543	44,506	33,696
平成26年	22,102	27,592	36,184	42,524	54,119	57,282	83,588	74,118	57,592	55,143	45,900	28,817
平成27年	25,798	30,919	39,039	43,848	53,127	65,835	85,748	76,581	57,448	54,332	46,287	35,294
平成28年	26,491	30,546	39,378	45,079	52,031	110,565	75,408	72,426	55,152	55,657	43,658	33,775
平成29年	24,956	27,445	37,340	40,805	52,515	87,503	90,596	69,972	51,258	47,727	38,779	30,758

※主要観光6地点：美郷町ラベンダー園、六郷湧水群、名水市場湧太郎、ニテコ名水庵、手づくり工房湧子ちゃん、道の駅雁の里せんなん

(2) 町内宿泊施設における年間宿泊者数

千畑温泉サン・アール、六郷温泉あったか山、宿泊交流館ワクアス、旅籠屋における年間の宿泊者数は、平成27年度から宿泊交流館ワクアスが稼働したことにより1万3千人程度まで増加している。

各宿泊施設の稼働率は、平成29年で千畑温泉サン・アールが38.30%、六郷温泉あったか山が20.12%、宿泊交流館ワクアスが21.12%であり、全国平均の55.00%を大幅に下回っている。また、観光統計旅行・観光消費動向調査によると、平成29年国内旅行の宿泊率が49.90%となっているのに対して、本町の宿泊率は2.30%にとどまっている。

<年間宿泊者数及び稼働率>

(人)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
千畑温泉サン・アール (稼働率)	3,755 (32.66%)	3,626 (33.21%)	3,728 (32.12%)	3,976 (36.56%)	3,638 (36.24%)	3,818 (38.30%)
六郷温泉あったか山 (稼働率)	3,886 (22.63%)	2,829 (20.53%)	3,640 (20.79%)	3,403 (22.81%)	3,701 (23.43%)	3,019 (20.12%)
宿泊交流館ワクアス (稼働率)	—	—	—	1,781 (15.11%)	2,204 (18.19%)	2,704 (21.12%)
旅籠屋 ※民間施設 (稼働率)	4,144 (データなし)	3,512 (データなし)	3,850 (データなし)	4,051 (データなし)	4,310 (データなし)	4,251 (データなし)
合 計	11,785	9,967	11,218	13,211	13,853	13,792

<年間宿泊率>

(人、%)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
入込客数	570,336	594,727	584,961	614,256	719,266	599,654
宿泊者数	11,785	9,967	11,218	13,211	13,853	13,792
(宿泊率)	2.07	1.68	1.92	2.15	1.93	2.30

(3) 第3セクターの売り上げ

温泉施設（千畑温泉サン・アール、六郷温泉あつたか山、湯とびあ雁の里温泉、宿泊交流館ワクアス）の売り上げは、平成27年から宿泊交流館ワクアスが新たに稼働したことなどにより伸びているが、年間3億円には達しておらず例年ほぼ横ばい傾向にある。

物産の売り上げは全体的に減少傾向にあり、2億8千万円程度で推移している。道の駅雁の里せんなんは平成28年まで売り上げが伸びているが、平成29年は天候不順などが原因で落ち込み、農産物の生産量が低下し十分に仕入れできなかったことが要因と考えられる。

手づくり工房湧子ちゃんは、例年ほぼ横ばい傾向にある。平成27年、郵便局の全県統一カタログ誌「ふるさとパック」にニテコサイダーなどの商品が掲載されたことにより、一時的に伸びている。ニテコ名水庵は売り上げが減少している。

<売り上げ>

(千円)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
温泉施設	204,968	203,576	211,727	271,978	262,220	285,509
(小計)	204,968	203,576	211,727	271,978	262,220	285,509
	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
道の駅雁の里せんなん	189,894	188,949	193,484	197,692	199,065	186,504
手づくり工房湧子ちゃん	25,493	26,962	28,782	38,483	28,114	27,462
ニテコ名水庵	61,111	63,346	56,583	55,501	57,157	51,344
(小計)	276,498	279,257	278,849	291,676	284,336	265,310
合計	481,466	482,833	490,576	563,654	546,556	550,819

※温泉施設の売り上げには公共事業の受託経費も含まれている。

4. 現状と課題

(1) 地域資源の観光資源化と活用・連携

【現状】 本町はこれまで、自然・風土、歴史・文化、体験、行催事、拠点施設などの地域資源を活用し観光振興施策に取り組んできた。一部でのグリーンツーリズムへの取り組みを除き、ニューツーリズムに対する認識が低いこと、地域資源間の連携が図られていないことから、いずれも地域資源単独で行動が完結する周遊性に欠けた滞在時間の短い「通過型観光」に終始してきており、物産振興にも寄与していない状況にある。

【課題】 町民の共有財産である水を基軸としたストーリー性や統一性を強く意識し、ニューツーリズムと既存の地域資源との結びつけにより、物産振興にもつながらる観光振興施策の展開が必要である。そのため、これまでの通過型観光から「体験型・滞在型観光」にシフトしていく必要がある。

(2) 観光客の受け入れ体制

【現状】 本町への一次アクセスは、空路、陸路、鉄道ともに県内でも比較的恵まれているが、二次アクセスや町内での移動手段に難がある。特に、二次アクセスは自家用車やレンタカーの利用が多く、町内での移動手段はタクシーやレンタサイクル、徒歩に限定され十分とは言えない状況にある。

また、観光情報についてはサイン類の多言語表示に取り組んでいるが、未だ整備途上にある。

観光案内については、ボランティアによる六郷湧水群の観光案内を行っているが、全町において観光案内できる人材の確保や仕組みづくりには至っていない。

【課題】 二次アクセスについては、民間交通事業者の協力による新たな交通システムを構築する必要がある。町内での移動手段については、町内を巡るレンタサイクルの取り扱い場所（施設）の拡充や利用についての仕組みづくりが必要である。

観光案内については現在のボランティア体制から有償化への切り替えについて検討し、観光関連の組織や団体単位で人材を育成する仕組みづくりが必要である。

(3) 観光情報の収集・共有・発信

【現状】 観光情報の発信は、主に町が作成する観光パンフレットを中心として、各観光拠点や宿泊施設等の個別パンフレット、リーフレットを町内の各施設に設置し、来町者から自由に持ち帰ってもらうことで情報発信している。また、インターネット上での情報発信についても同様であり、町の観光情報のホームページを起点として、各観光拠点や宿泊施設等へのリンク等により、情報を網羅しているが、あくまでも受動的な情報提供となっている。

また、町内のイベントや特産品の販売等の旬な情報を町内の観光関係団体、事業者間で情報共有する仕組みが無いため、タイムリーな情報発信ができていない。

【課題】 町が作成する観光パンフレットを中心としつつ、その情報に肉付けして旬な情報をタイムリーに観光客に届ける必要がある。また、受動的な情報提供ではなく、個人の嗜好に合わせてその情報を欲している観光客に確実に届くような仕組みを作ることが必要であり、そのためには町及び観光関係団体が同じデータベースの情報を参照し、観光客からの問い合わせ等があった場合、誰が対応しても同じ情報を届けられるような体制を築くことが大切である。これはインターネットを活用した情報発信でも同様の考え方が必要である。

第 3 章

観光振興の基本方針と施策展開

1. 基本方針
2. 基本目標
3. 観光振興の施策展開
4. 主な整備計画図

第3章 観光振興の基本方針と施策展開

1. 基本方針

第2章の課題を解決するため、本町が有する多様で多彩な地域資源の魅力を磨き上げ、町民・事業者・各種団体・行政が推進主体となって新たな観光振興に取り組み、以下を基本方針として観光施策を展開する。

方針1. 地域資源とニューツーリズムとのネットワーク化

- (1) 地域資源の連続性
- (2) 新たな地域資源の発掘と活用
- (3) 体験型・滞在型観光の確立

方針2. 観光客の受け入れ体制の構築

- (1) 受け入れ体制の充実
- (2) 観光人材の育成

方針3. 情報共有と受発信体制の構築

- (1) 観光情報の収集・共有・発信

2. 基本目標

基本方針による観光施策の展開を推進するため、入込客数と宿泊平均稼働率を達成すべき数値目標として掲げる。また、あきた美郷づくり株式会社の売り上げ数値目標を参考として記載する。

(1) 入込客数の数値目標（平成29年→平成37年）

現況数値 60万人 → **数値目標 80万人**

(2) 宿泊平均稼働率の数値目標（平成29年→平成37年）

現況数値 26% → **数値目標 40%**

【参考：あきた美郷づくり株式会社の売り上げ（平成29年→平成37年）】

現況数値 5.5億円 → **6.5億円**

3. 観光振興の施策展開

方針1. 地域資源とニューツーリズムとのネットワーク化

(1) 地域資源の連続性

本町には、寺町通りや坂本東嶽邸、後三年合戦など歴史文化に関する資源、清水や水を活用した物産などの資源に加え、真木真昼県立自然公園、女神山、黒森山、七滝山などの山塊、仏沢溜池などの湖沼、仏沢公園、雁の里山本公園、後三年スキー場などの自然資源や施設が点在する。このような地域資源をテーマ別に分類し、連続性や関連付けをもたせることにより、体験・交流型の滞在プログラムを創り上げる。そして、着地型旅行商品としてのパッケージ化を図り、それぞれの地域資源の魅力向上につなげる。

<テーマ別の地域資源の連続性>

テーマ	地域資源の連続性・関連付け
水の循環	七滝山(ブナ林)、真昼山、女神山、高山植物、 仏沢溜池、円形分水工、後三年スキー場、 雁の里山本公園キャンプ場、清水(湧水)、ラベンダー園、 イバラトミヨ
自然とのふれあい	
歴史・文化	坂本東嶽邸、佐藤章蔵、歴史民俗資料館、後三年合戦、 寺町通り、六郷城跡、本堂城跡、伝統行事
水との暮らし	清水(湧水)、酒蔵、地酒(美郷雪華純米吟醸)、 ニテコサイダー、ニテコ流しソーメン
農作業体験	米づくり、野菜・果樹づくり、収穫、農産加工品、農家民宿

※一部の例示であり、この他のテーマや地域資源もある。

(2) 新たな地域資源の発掘と活用

テーマ別に分類した地域資源、これまで活用してきた地域資源に「ニューツーリズム」の概念とツールを組み合わせることによって、既存の地域資源はもとより新たな地域資源の発掘や魅力の発見につなげる。

ニューツーリズムと本町の地域資源を結びつけネットワーク化を図るためのツールとして、アウトドア・アクティビティの導入を推進する。アウトドア・アクティビティは、豊かな自然環境を満喫する手段として性別や年代を問わずに人気が定着しており、自然資源の多い本町にとっては最も効果的な手段である。

アウトドア・アクティビティの導入に伴い、①フィールドの整備、②レンタル用品の整備、③観光拠点施設の整備を計画的に実施する。

<ニューツーリズムとツールの組み合わせ>

テーマ	地域資源の連続性・関連付け	ニューツーリズム	ツール
水の循環	七滝山(ブナ林)、真屋山、女神山、高山植物、仏沢溜池、関田円形分水工、後三年スキー場、雁の里山本公園キャンプ場、清水(湧水)、ラベンダー園、イバラトミヨ	エコツーリズム アウトドアツーリズム	サイクリング ウォーキング トレッキング カヤック キャンプ スノーシュー エアボード
自然とのふれあい			
歴史・文化	坂本東嶽邸、佐藤章蔵、歴史民俗資料館、後三年合戦、寺町通り、六郷城址、本堂城址、伝統行事	エコツーリズム	サイクリング ウォーキング
水との暮らし	清水(湧水)、酒蔵、地酒(美郷雪華純米吟醸)、ニテコサイダー、ニテコ流しソーメン		
農作業体験	米づくり、野菜・果樹づくり、収穫、農産加工品、農家民宿	グリーンツーリズム	農作業 農産品加工

<①アウトドア・アクティビティの導入に伴うフィールドの整備計画>

アクティビティ	フィールド
	主な整備内容
トレッキング	七滝山、真木真昼県立自然公園、女神山、黒森山
	①駐車場 ②案内・誘導看板 ③ベンチ ④トイレ ⑤登山届け提出ポスト ⑥登山道 ⑦峰越林道 ⑧女神山～黒森山の縦走ルートの整備
サイクリング	町内全域
	①誘導標識 ②ブルーライン等の距離表示 ③協力店 ④注意喚起看板(特に六郷中心地) ⑤協力店へのバイクラックや工具
カヤック	仏沢溜池
	①艇庫・斜路
スノーシュー	雁の里山本公園周辺、仏沢溜池周辺
	①専用コース ②専用標識
エアボード	後三年スキー場
	①専用コース

<②レンタル用品の整備>

アクティビティ	レンタル用品
トレッキング	トレッキングシューズ、レインウェア、防寒着、バックパック
サイクリング	自転車(ロード・MTB)、ヘルメット、プロテクター
カヤック	タンデム艇、シングル艇、PFD、パドル
スノーシュー	スノーシュー、ストック、ウェア
エアボード	エアボード、ヘルメット、ウェア
キャンプ	テント、調理器具、寝袋、マット、テーブル、椅子

<③観光拠点施設の整備>

観光客の集客や動線を考慮した観光拠点施設の機能充実を図る。トレッキングなどのアウトドア・アクティビティの拠点となる、千畑温泉サン・アール、六郷温泉あったか山、湯とぴあ雁の里温泉、名水市場湧太郎、道の駅雁の里せんなんにはレンタル用品を整備し、観光客の利便性を図る。

(項目)	(内容)	観光拠点施設					
		サン・アール	あったか山	湯とぴあ	湧太郎	道の駅	飯詰駅 後三年駅
レンタル用品	トレッキング	○	○	—	—	○	—
	サイクリング	○	○	○	○	○	○
	バイクラック (工具)	○	○	○	○	○	○
	スノーシュー	○	○	○	—	—	—
	エアボード	—	—	○	—	—	—
	キャンプ	○	—	○	—	—	—

(3) 体験型・滞在型観光の確立

点在する地域資源と自然資源を連携させ体験型・滞在型観光の確立を目的とし、ニューツーリズムへの取り組みを推進、町内一円を周遊できるルートや四季を通じたモデルルートを構築する。

【モデルルート①】

— 美郷の源「七滝山」を体感する —

- 名水市場湧太郎をマウンテンバイクで出発。六郷地区の湧水を数カ所巡り、七滝山山頂を目指す。水の循環を遊のように関田円形分水工を經由して、七滝山の登山口まで走る。マウンテンバイクを登山口に止め、トレッキングで七滝山ブナ原生林を目指す。



- 七滝山に豊富に自生する山菜をトレッキングしながら採取し、麓の仏沢公園キャンプ場や六郷温泉あったか山のコテージでクッキングを楽しむ。



【モデルルート②】

— 美郷の冬を満喫する —

- 後三年スキー場でエアボードを体験。夕方からはかまくら作り体験、六郷のカマクラ行事を鑑賞し、千畑温泉サン・アールに宿泊。翌日は、朝から仏沢溜池専用コースでスノーシューを体験する。



【モデルルート③】

— 美郷の自然を満喫する —

- 真木真昼県立自然公園でトレッキングを楽しみ、千畑温泉サン・アールに宿泊。翌日は、サイクリングで町内の清水を巡り水の循環を体感する。



- 七滝山でトレッキングを楽しみながら、夜には星空観賞を体験する。



【モデルルート④】

— 美郷の水を学ぶ —

- ウォーキングやサイクリングで関田円形分水工や六郷湧水群を巡り、途中、酒蔵の見学や湧水を使って作られた地酒の試飲などを楽しむ。湧水とそこに根付く文化を学習する。



【モデルルート⑤】

— 美郷の歴史・文化を学ぶ —

- 町内農家で農作業を体験。農家民宿に宿泊し、翌日は坂本東嶽邸の見学や歴史民俗資料館でわらの体験、寺町通りや佐藤家蔵を巡る。農作業体験や歴史的な建造物から地元根付く文化に触れる。



方針 2. 観光客の受け入れ体制の構築

(1) 受け入れ体制の充実

二次アクセスについては、秋田空港と県内の観光拠点を直結する「あきたエアポートライナー」や他自治体の事例を参考に、観光客の利便性を図る送迎システムを構築する。送迎バスまたは送迎タクシー、町内巡回タクシーの導入及び活用について、民間の交通事業者やあきた美郷づくり株式会社と検討する場を設け協議する。

町内移動手段のレンタサイクルについては、JR 後三年駅や JR 飯詰駅をはじめ複数の観光拠点施設で乗降可能な仕組みの構築を図る。

交通手段	実施主体	整備計画
送迎バス	民間の交通事業者 あきた美郷づくり(株)	最寄駅(JR大曲駅含む)～観光拠点～宿泊施設を結ぶルートで周遊運行を実施。 (認可取得含む)
送迎タクシー	民間の交通事業者 あきた美郷づくり(株)	最寄駅(JR大曲駅含む)～観光拠点～宿泊施設の往来について顧客の要望に合わせた送迎を実施。 (認可取得含む)
レンタサイクル	町内事業者	JR後三年駅や飯詰駅をはじめ、複数の観光拠点施設で乗降可能な仕組みを構築する。 具体的な整備内容は、各拠点へのレンタルサイクルの配置、乗降による拠点間の数調整及びメンテナンス体制を整備する。

宿泊施設については、ニューツーリズムのニーズに応じた施設整備や宿泊用品（キャンプ用品）のレンタル、観光客と町民の交流による地域の賑わい醸成、農家民宿の拡大と民泊の導入について整備する。導入にあたっては、宿泊施設の経営等について町民が学ぶことができるよう講習会の開催、拡大・導入に際してのコストを軽減するための支援策を講じ、宿泊施設の充実化を図る。

また、地域資源の連続性を示す案内・誘導看板の設置、英語だけではなく、タイ語や中国語など多言語に対応した案内・誘導看板の充実化、街づくりの重要なインフラである無料 Wi-Fi 環境の整備など、継続的に観光客が町内を周遊しやすい環境整備を目指す。

(2) 観光人材の育成

テーマ性に沿った着地型の滞在プログラムを実現するためには、観光客と地域との交流が必要であり、観光関係者はもちろん多くの町民が関わりを持ち、町全体で観光客のおもてなしができるよう観光人材の育成を図る。

さまざまなニーズをもった観光客、日本人や外国人を問わず誰に対しても同じようにおもてなしや観光案内ができるよう、あきた美郷づくり株式会社や町内事業者を中心として一貫性のある人材育成手法を構築する。

また、観光テーマ毎にガイドを育成し、これまでの無料体制からガイド時間等によるガイド料金を設定することとし、より精度の高いガイドを観光客へ提供する。

方針 3. 情報共有と受発信体制の構築

(1) 観光情報の収集・共有・発信

情報収集と情報共有を図るための一元的な管理は、道の駅雁の里せんなんに設置を予定している総合的な観光インフォメーション施設で行う。観光情報データベースを構築し、町内の情報を網羅的に収集するとともに、ニューツーリズムなどの外部情報の収集も行い、加えて、観光客からの問い合わせ及び町内施設や事業者の回答・対応についてもデータベースで一元管理した上で情報共有する。あきた美郷づくり株式会社や町内事業者は、当該データベース及び観光インフォメーション施設を活用し、観光客の問い合わせ等に対して迅速かつ的確に説明、情報発信をおこない、観光地や施設等へ的確に誘導できる仕組みの構築を目指す。

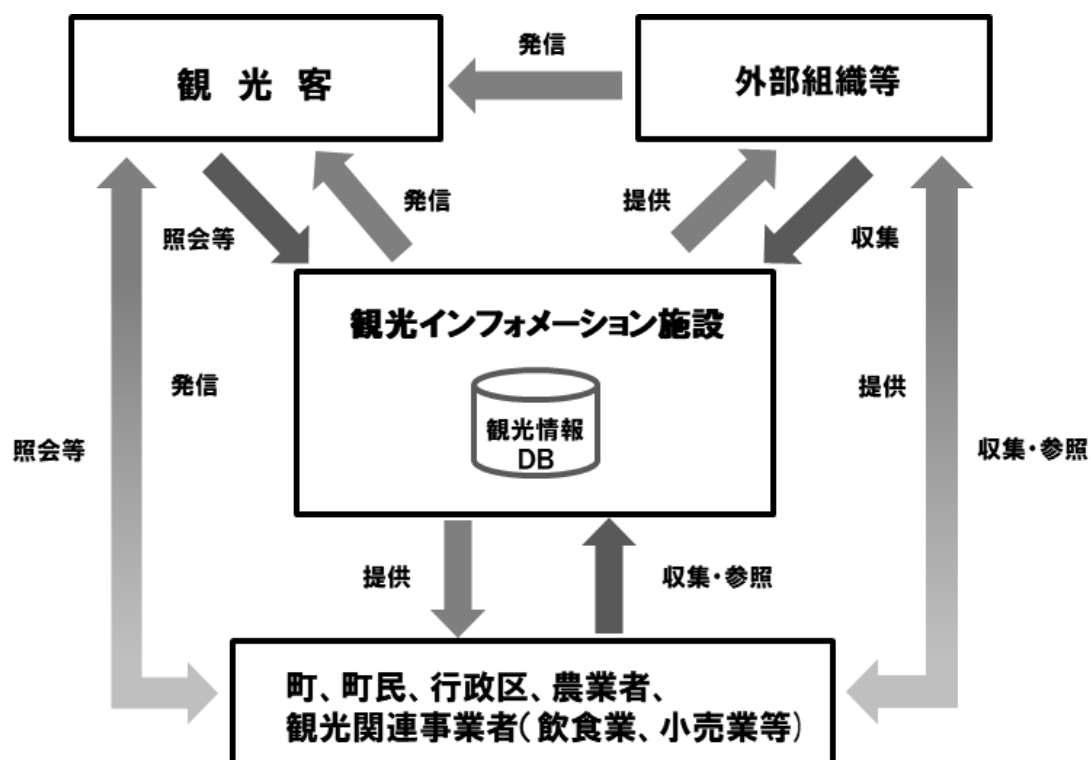
発信に関しては、顧客情報を収集・分析し、ニューツーリズムにターゲットを絞ったプロモーションを行い、テーマ別にきめ細かく情報提供することが効果的である。発信手法は、既存のパンフレットやホームページ、ミズモツイッターやフェイスブックに加え、より発信力と影響力が大きいSNSの新たなコンテンツを利用し、著名な個人ブロガーやインフルエンサーによる情報の拡散や口コミなども意識しながら、あきた美郷づくり株式会社や町内事業者の積極的な活用を推進する。

また、観光パンフレット等のデジタル情報は、観光客が自らいつでも簡単に情報が取得できるよう、「QRコード」を積極的に活用する。

＜共有・発信する観光情報＞

項目	情報
観光地情報 (共有・発信)	○観光スポットや施設の場所、連絡先、アクセス、サービス など ○プレイスポット(体験型)の場所、連絡先、アクセス、サービス など
イベント情報 (共有・発信)	○開催期間、開催場所、開催内容、主催者、連絡先 など
特産品情報 (共有・発信)	○特産品の名称、販売時期、取扱施設、価格、由来 など
外部情報 (共有・発信)	○ニューツーリズム等の業界情報
観光客おもてなし情報 (共有)	○観光客からの問い合わせ ○各施設及び町内事業者の回答・対応

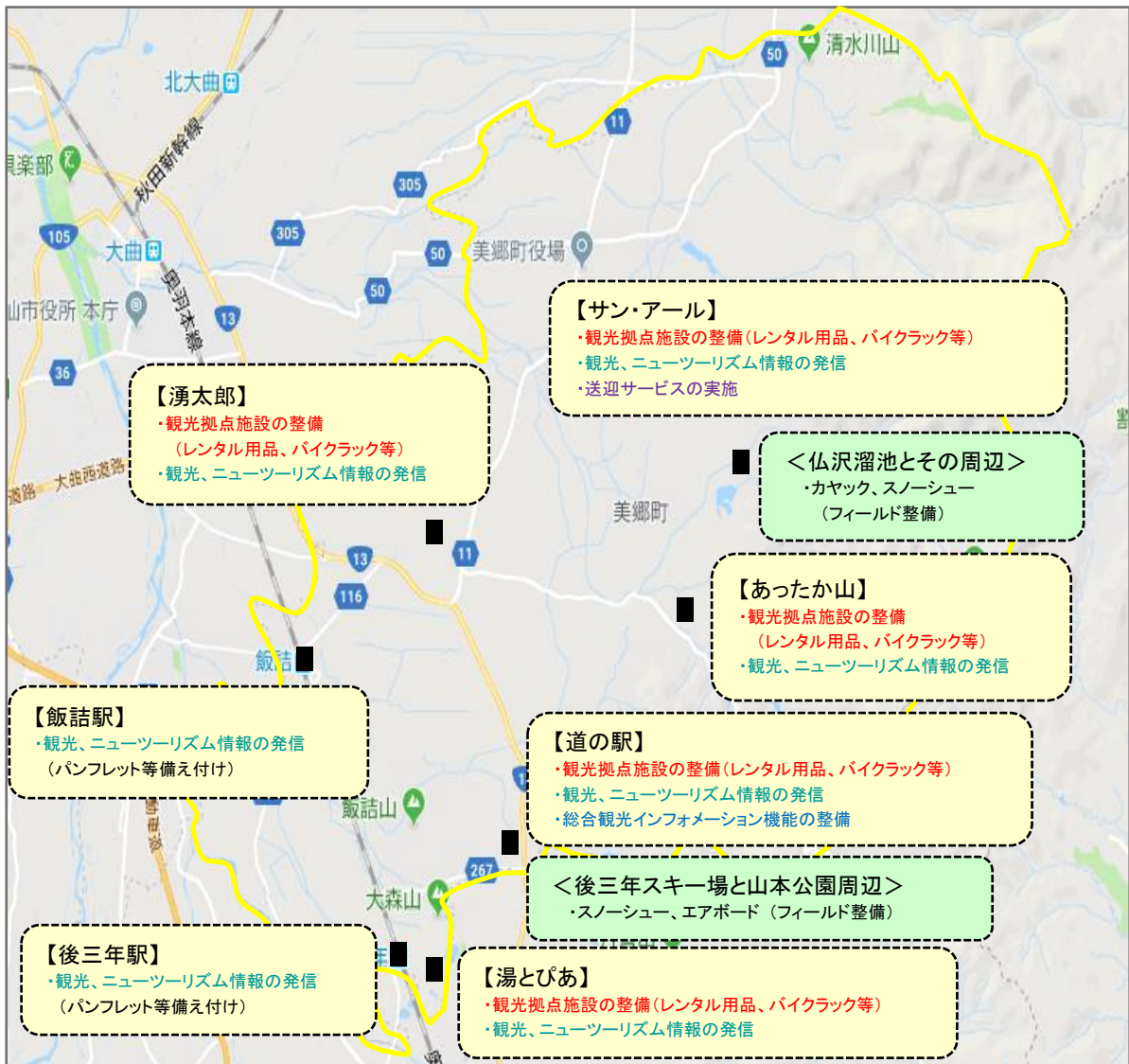
＜情報発信の新たな仕組み＞



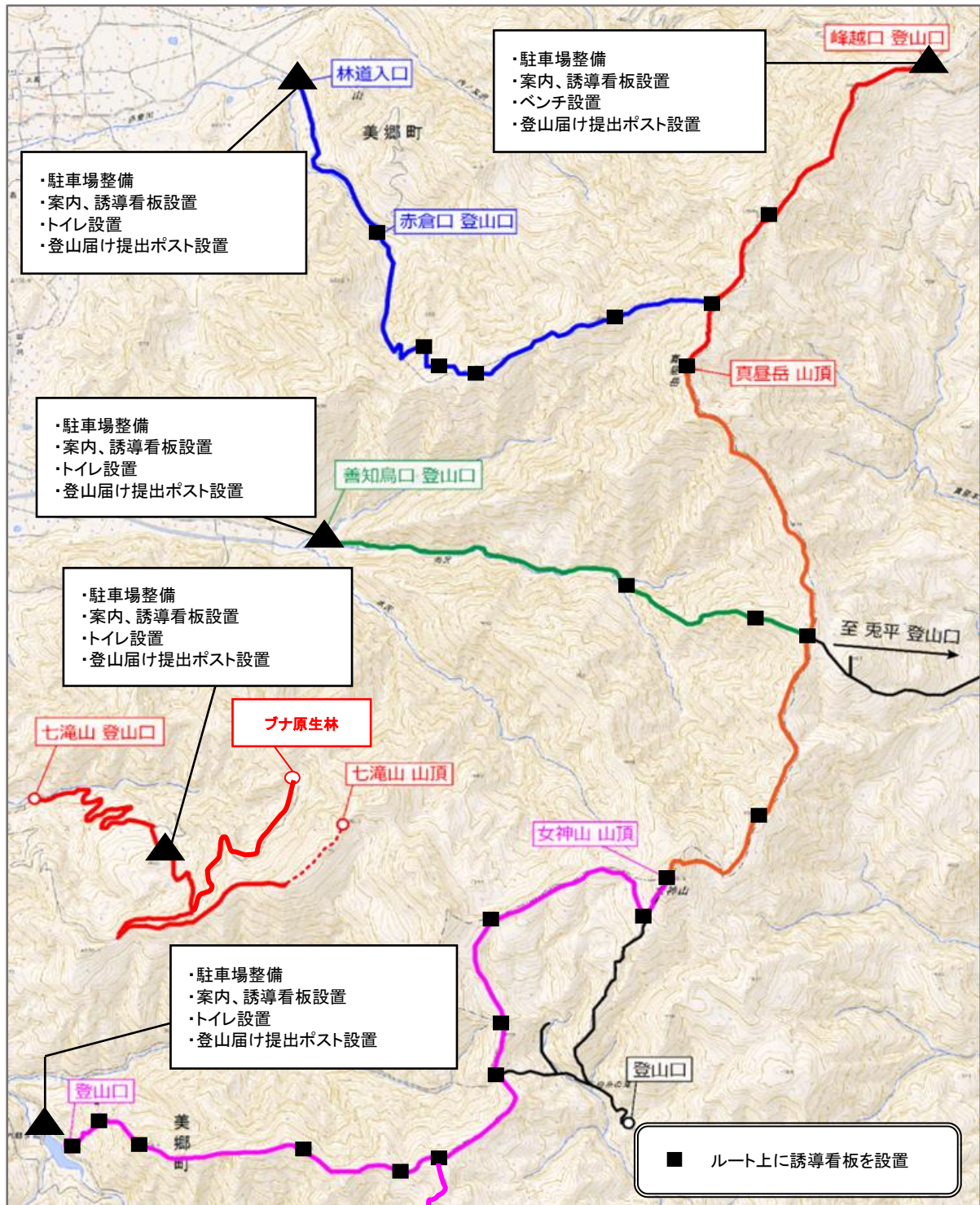
4. 主な整備計画図

アウトドア・アクティビティの導入に伴うフィールドの整備やレンタル用品の整備、観光拠点施設の整備等の計画について、平場と山間に分けて次のとおり図示する。

(1) 平場



(2) 山間





第 4 章

計画の推進体制

1. 計画の推進体制
2. 計画の推進スケジュール
3. 計画の進捗管理と評価

第4章 計画の推進体制

1. 計画の推進体制

行政のみならずあきた美郷づくり株式会社や商工会、農業団体や町民との連携と協力が必要不可欠で、観光振興に携わる関係者だけではなく、町民をはじめとした地域全体が観光振興の担い手として積極的に関わることができるよう、計画等の周知・啓発により理解と協力を求める働きかけを行い、庁内関係部署間の有機的な連携とともに、国・県や関係機関との連携をさらに強化し、総合的かつ効果的な計画の推進を図る。

また、その中心的役割は、新たに設置する「地域資源活用協議会」が担う。

2. 計画の推進スケジュール

別紙スケジュールのとおり

3. 計画の進捗管理と評価

計画の着実な推進のためには、計画立案(Plan)、実践(Do)することはもちろん、設定した指標や計画策定後も適切に評価(Check)、改善(Action)がおこなえるよう、循環型のマネジメントサイクル(PDCA サイクル)に基づき、町商工観光交流課においてこれらの管理・評価を一連のつながりで実施する。

